

Veterinary Medicine Model Core Curriculum



獣医学教育 モデル・コア・カリキュラム

平成24年度版



全国大学獣医学関係代表者協議会

Veterinary Medicine
Model Core Curriculum



獣医学教育

モデル・コア・カリキュラム

平成24年度版

全国大学獣医学関係代表者協議会



獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 緒言

近年、獣医学を取り巻く環境は大きく変貌しています。国際的には公共獣医事(Veterinary Service)を担う人材の育成のための獣医学教育の確立が求められており、2010年10月には、国際獣疫事務局(OIE)から獣医学教育に関するミニマム・コンピテンシー(案)が公表され、対応が迫られているところです。また、国内的には食の安全確保、人獣共通感染症への対策、小動物を主体とする獣医療サービスの多様化、公務員として行政に従事する獣医師ならびに産業動物(大動物)獣医師の人材確保など、様々な社会的ニーズが存在します。いま、これらに対応した新しい時代の獣医学教育とは何か、その具体的な内容と質の保証が問われているところです。

教育の質保証は、2004年から始まった国立大学法人化を契機に日本学術会議で議論が開始され、獣医学に限らない教育の全分野における流れです。これは、外に開かれた教育、説明責任を果たし得る教育システムの構築を推進する運動として現在進められています。以前の教育システムは、あらかじめ設置基準を決めておき、これに適合しているかどうかで判断されるという事前チェック型(設置基準適合型)であったのに対して、新しい方式では事前チェックに加えて事後チェックという手法を導入し、これに耐えうる教育システムの構築が求められているところです(中間・事後評価型)。

すなわち各大学にあっては、どの様な教育プログラムを設定しているか、どの様にそのプログラムを実行しているか、そしてそれによって学生にはどの様な成果がもたらされたのかといった諸事項について、学外からの検証に耐えうる教育システムを構築することが求められています。

こうした流れのなか、2008年11月に、文部科学省に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(以下協力者会議と呼ぶ)が設置され、多くの議論がなされてきました。

この議論の中で、社会の要請に応え得る人材を育成するために獣医学教育システムの改善・充実を求めるのであれば、そもそも獣医学教育とは何か、教えるべき標準的な教育項目とは何なのか、という問いかけがなされました。これに対して、獣医学教育関係者は残念ながら正確に答えを返すことができませんでした。獣医師国家試験ガイドラインはありましたが、これはあくまでも臨床獣医師ならびに公衆衛生獣医師が獣医事に従事するために修得しておくべき項目であり、多様な分野をカバーする獣医学すべてを現すものではありません。この様なことを背景として、協力者会議の下に置かれた小委員会では全国16大学の獣医学教育内容を分析し、現状の課題とその対応をまとめました。その中で、我が国における理想的な獣医学教育像を描くためには、学生の具体的な到達目標(ラーニングゴール)を明示した詳細なカリキュラムの内容(シラバス)と教育手法を明示しておくことが不可欠であるとの指摘がなされました。

これを受け、獣医学教育方法のモデルを明示するという目標を掲げ、「獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究」(東京大学を代表校とする平成21年度の先導的
大学改革推進委託事業)がスタートしました。2年の歳月を経て、今般、平成23年度版獣医学教育モデル・コア・カリキュラムを公表する運びとなりました。この作業には、国公私立の獣医系16大学の教員と若干名の外部協力者を合わせた総勢134名に携わっていただきました。

獣医学教育に取り上げるべき授業科目としては、2004年4月に全国大学獣医学関係代表者協議会で合意された「獣医学専門教育課程の標準カリキュラム」をもとに、協力者会議小委員会
で若干の名称の修正を加えた51科目を選択しました。従来の獣医学の講義科目は、国家試験ガイドラインに示された

18科目を基本としていましたが、ここでは近年の獣医学の進歩を考慮し、また社会的ニーズも考慮に入れて細分化されています。実習科目については19科目を選択しました。医学・歯学分野の例にならって、学科目にとらわれない包括的なモデル・コア・カリキュラムを策定しようとの議論もありましたが、新規に立ち上がる学科目も多いこと、施行後の利用価値が限定されることなどから、科目ごとの作業としました。また、2010年のOIEミニマム・コンピテンシー（案）をできる限り反映させました。

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムには、現時点で獣医学学生が修得すべき基本となる教育内容が示されています。全大学に課される共通の到達目標というべきものであって、大まかではありますが6年間の履修年限の中で獣医学として教えるべき3分の2程度の内容を示しています。各科目に必要な履修時間数は示しておらず、大学独自の判断で決めることを前提としています。各大学にあっては、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに示された内容を確実に教授することが求められますが、科目名については独自の基準で設定することができます。また、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムはあくまでコア(核)ですので、各大学はさらに、残りの3分の1の内容を大学独自の理念や社会的要求に基づいた判断により、履修時間の配分を変えるあるいは別立てのカリキュラムを組むことにより実施することが求められています。

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムとは、大学卒業時までに身につける必要不可欠な知識を精選した教育内容のガイドラインであって、具体的な到達目標を明示することによって分野ごとの教育内容とレベルを確保することを目的としています。この事業によって、私たちははじめて自主的、主体的に定めた共通の教育指針を持ったことになります。事後

チェックという新しい教育システムが求められていることから、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムは自己点検・自己評価の評価基準として、あるいは横断的・分野別認証評価といった大学認証評価の基準としても使用されることとなります。

協力者会議の「今後の獣医学教育の改善・充実方策についての意見の取りまとめ」（平成23年3月時点では案）では、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムは教育の質保証の基軸であって、これをもとに今後の教育体制全般の整備を進めること、参加型臨床実習の導入にともない必要となる獣医学学生の質保証の基準とすること、さらに共通テキストの作成やFD等様々な取り組みに生かすべきであること、と結論づけています。今後、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが有効に活用され、獣医学教育の質向上に役立つことを願ってやみません。

平成 23 年 3 月 29 日
獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する
調査研究委員会

石黒直隆（岐阜大学）
尾崎 博（東京大学）：委員長
片本 宏（宮崎大学）
佐藤晃一（山口大学）
佐藤れえ子（岩手大学）
多川政弘（日本獣医生命科学大学）
田村 豊（酪農学園大学）
西原真杉（東京大学）
吉川泰弘（北里大学）

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成24年度版について

平成23年5月23日、文部科学省に設置されていた「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」は意見のとりまとめを公表しました。平成23年6月に開催された全国大学獣医学関係代表者協議会(震災のため6月に順延された)では、このとりまとめについて議論がなされ、今後、全国16の獣医学系大学はこのとりまとめに沿った獣医学教育改善を行うことを確認しました。この意見とりまとめには、獣医学教育改善の柱となる以下の5つの方向性が明示されています。

- 1) モデル・コア・カリキュラムの策定等による教育内容・方法の改善促進
- 2) 自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入など、獣医学教育の質を保証する評価システムの構築
- 3) 共同学部・学科の設置など大学間連携の促進による教員の確保を含めた教育研究体制の充実
- 4) 実習室等の教育環境及び附属家畜病院の充実や、外部機関等との連携による臨床教育等の充実
- 5) 共用試験の導入に向けた検討

協力者会議の議論と並行して進められてきた獣医学教育モデル・コア・カリキュラム策定の作業もこの意見とりまとめとともに終了し、平成23年3月に公表したところです。全国大学獣医学関係代表者協議会では、このモデル・コア・カリキュラムが承認され、今後全国16の獣医学系大学全てにおいてこのカリキュラムに沿った獣医学教育が実施されることとなりました。

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが策定されまだ1年に満たない状況ではありますが、今般、平成24年度版を発行することにしました。その趣旨は、平成28年度からの実施

を目指している獣医学共用試験に向けての準備です。各大学は、共用試験を4年次の後期あるいは5年次の前期終了前に実施することになりますが、学生に対してもこの共用試験出題範囲を早い時期に明示しておくことが必要と考えられます。共用試験ではモデル・コア・カリキュラムに記載されている講義科目51科目全てが対象となりますが、この中で共用試験には出題されない到達目標に「△」印を付しました。モデル・コア・カリキュラムは全ての獣医学学生が卒業までに習得しなければならない学習項目を明示したのですが、試験という手段でその到達度を測る必要がないもの、さらに総合参加型臨床実習の進行とともに学習してもよいものを印付けの対象項目としました。さらに、若干数ではありますが到達目標の削除、移動、臨床科目の総論部分の統一化、そして文言の修正も加えています。

平成23年6月の全国大学獣医学関係代表者協議会では、モデル・コア・カリキュラムの大幅な見直しは5年後に行うとしています。それまでの間、この平成24年度版モデル・コア・カリキュラムをご活用いただき、またそれとともに次回の改訂へのご準備をお願いしたいと思います。

平成24年3月26日

全国大学獣医学関係代表者協議会

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム委員会

